

学 校 評 議 員 会 議 録

開催日時	令和6年11月28日（木）16：00～17：30		
会 場	北海道札幌東高等学校 会議室		
出席者名	学校評議員 武 田 奈津子 酒 井 誉 介 小田原 史 佳 父母と先生の会 街 道 美 恵 野 中 沙緒里 同 窓 会 加 藤 敏 彦 檜 田 英 樹	校 長 須 藤 克 志 副 校 長 高 橋 昌 宏 全日教頭 荻 田 英 樹 定時教頭 鷗 野 和 憲 主幹教諭 酒 井 木 葉 子 事 務 長 鈴 木 貴 之 総務部長 藤 林 亮 太 教務部長 鎌 田 大 介 生徒指導部長 吉 井 百 合 進路指導部長 菊 池 解 歩 探究部長 洪 谷 奈 緒 3 学年主任 吉 川 敦 巳	

会議次第・議事内容

- 1 開会
- 2 校長挨拶
- 3 自己紹介
- 4 スクール・ミッション等の再定義と魅力ある学校づくりについて
 - ・ 別添資料の通り
- 5 意見交換
 - ＜同窓会＞
 - ・ 東大、京大が全てではないのではないかな。そこを競う必要はないのではないかな。
 - ・ 「職業人に聞く」では、失敗した人の体験も大切だと思う。
 - ・ コミュニケーション能力は、学校だけではなくその他の機関も利用して力をいれてほしい。
 - ＜同窓会＞
 - ・ 東高に入学する生徒は、独創性や飛び抜けている部分がないが、安心して仕事を任せられる。
 - ・ 先生方は、生徒に任せる活動を作してほしい。
 - ・ 開成中等教育学校の進路先は、ほぼ100通りある。自分のやりたいことをみつけてその学部に行くことが大切。自分の意志で決めていくことが大切。〇〇大学に何人入ったという時代ではないので、数の尺度ではない自分の人生の大事な部分を東高でつくってもらったという思いを大切にしてほしい。
 - ＜父母と先生の会＞
 - ・ 3人子供がお世話になって、大学受験が大変なことに身にしみた。
 - ・ 大学が沢山あることや推薦や他の道もあることを親が勉強しなければならないと思った。
 - ＜父母と先生の会＞
 - ・ 進路については、分からないことが多く、北大しか分からなかった。
 - ・ PTAで北大ツアーに参加して、親も勉強になった。子供もこういったものに参加すればよいと思った。推薦のことも知らなかった。仕事の種類も沢山あるので、自分で探し、経験し、話ができるような教育活動を行ってほしい。
 - ＜評議委員＞
 - ・ スクールミッションがシンプルで分かりやすくてよい。嬉しく思った。
 - ・ 4つの力の評価基準を明確にすると良いと思った。
 - ・ 東高の生徒は、誰もがこんな感じというイメージがわくと成功なんじゃないかなと思う。
 - ＜評議委員＞
 - ・ 真面目な生徒が多く、先生方も楽。
 - ・ とがった先生がいた方がおもしろいかなと思った。
 - ・ 北大を100人以上合格させる等の何かに特化してもよいのでは。
 - ・ コミュニケーション能力は、「経験する」をこちらから仕掛けないと挑戦することがなかなかできない。失敗をすることを恐れなくて経験することが大切なのではないかな。
 - ・ 定時制については、社会で生きていくための耐える力は、だめだと思う。学校に来られない生徒には、「逃げていいんだよ」ということも必要。耐えるという表現が不適格ではないかな。

<評議委員>

- ・東西南北のカラーが伝統のようなもので、周りの人たちがイメージしているだけではないか。
- ・中には、色々な生徒がいる。東西南北のイメージを話題の中心に出すのはやめてもいいのかなと思った。
- ・職業人に聞くの話をいただいて、大学受験に失敗の話をして自分の体験・実践の話をしつつ人とのつながりで今の職業に就くようになったことを話したことで、評議委員になっている。
- ・毎回、評議委員会で同じような話をしているので、今後どうしたらよいのかの話をしていたほうがよい。

6 学校からの近況報告

ア 全日制

<教務>

- ・教え込む方が多いのが今の課題である。
- ・失敗して頑張ろうとする生徒を育てたい。
- ・タブレットを使用しているが、手段として使用し、場面に応じて対応していくのが課題。
- ・コミュニケーションについては、学校だけでは解決できる問題ではないので、様々な観点から教えていきたい。自己肯定感が低い生徒が多い。教育相談が重要と思う。

<生徒指導部>

- ・落ち着いている。中学の時に比べ、静かに勉強ができる安心感を感じている生徒が多い。
- ・コロナ禍を過ごした生徒達なので、頑張る体験が少ないので、体と気持ちのバランスがとれない生徒が多い。長期休み明けアンケートを実施し、対応している。
- ・勉強以外の体験を積むことを大切にしている。よい伝統を再度取り込む。
- ・生徒主体での動きが続くように生徒会が手探りで頑張った。
- ・部活動では、活動時間が短い中、公立高校で良い結果を出している。
- ・野球の全校応援もあり、学校として一丸となった。

<進路指導部>

- ・道外に希望する生徒が増えた。進路実績を廊下に張ることで視野が広がった。
- ・富山高校の実績は、生徒に大変手をかけているのが原因と思われる。
- ・生徒の希望を叶えられる指導をしていきたい。

<総務>

- ・ICTについては、道内ではかなり進んでいる。
- ・iPadを活用が充実してる。
- ・教科での活用では、プロジェクター全教室に設置。授業が効率よくできている。
- ・働き方改革も進み、デジタル採点、校内のデバイスを一括でつなげた。
- ・課題は、iPadの老朽化についての予算。校内のIPアドレスの不足。

<3学年>

- ・東の気質の素晴らしさに感動した。学校が変わろうとしている中での学年。
- ・挑戦させることを働きかけながら教育活動をしている。
- ・進学では道外希望者も多い。
- ・探究では、ユニークな視点で自らの興味関心を深める活動を行っていた。

<2学年>

- ・コロナ禍の影響を受け、神経質な生徒が多く手洗いの行列も一番多い。
- ・教育相談や転学者もいる。
- ・学習については、大変頑張っており伸びていて、進路では道外希望者が例年より多い。

<1学年>

- ・全力でやりきるとスローガンの元、活発に頑張っている。
- ・コロナの影響があると感じるが、欠席については、少ない。
- ・学習については、手探りの状態。基礎基本が定着してない部分もある。
- ・集団の話し合いは、やり慣れている。
- ・部活動では、物怖じしない態度で臨んでいる。行事・レクは、良い雰囲気で行われている。
- ・全日制の活動について 資料通り

イ 定時制 資料の通り

7 校長挨拶

8 閉会

上記のとおり会議を開催した。

令和6年11月28日(木)

北海道札幌東高等学校長 須藤克志